

活躍する、卒業生たち  
レーシングドライバー

**岩佐 歩夢**さん

大阪国際大和田中学校高等学校 出身

学長対談

人間科学部 心理コミュニケーション学科3年次生

**生島 昭弥**さん

**米原 和貴**さん

知識の羅針盤

オーバーツーリズムの  
解決策を考える

学生のBOOKレビュー

国際教養学部

国際コミュニケーション学科3年次生

**長重 未来**さん

グローバル情報局／学園HEAD LINE／  
研究室探訪

特集

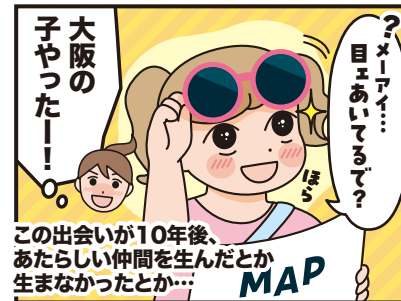
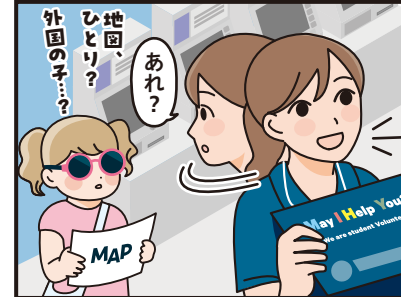
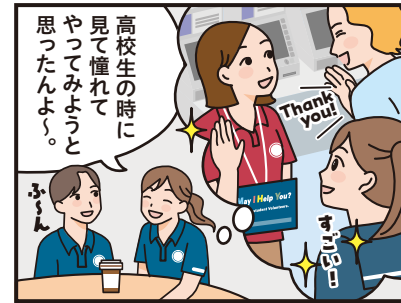
# 関西空港ボランティア 10年目のチャレンジ

大阪国際学園は、建学の精神である「全人教育」を基礎として、礼節を重んじ、世界に通じる心豊かな人間を育成します。



## GM四コマ劇場 vol.13

### ボランティアの芽



作者：ナオコ

「心の病気は目に見えませんが、数値で測ることも難しく、検査方法も確立していない。近年は精神医療も進歩していますが、いまだ説明されてない部分が多くあります。そうした、わからなさを探ることに魅力を感じます」。こう語るのは、人間科学部 人間健康科学科の岸本直子先生。医療の現場から教育のフィールドへ活躍の場を広げてきた、心のスペシャリストである。

心理学を志した理由を尋ねると「精神科医である父の影響と、幼い頃から人間観察が好きだった

ことでしょうか。水族館に遊びに行っても魚より、そこに来ている人間を見るのが好きでした」と笑顔。大学は神戸女学院大学の人間科学部へ進み、心の仕組みを学ぶ面白さに惹かれて臨床心理士資格を取得。その後、奈良県立医科大学での臨床経験と研究活動を経て、2023年より大阪国際大学で教鞭をとっている。

専門は臨床心理学、発達臨床心理学、精神保健。人の成長過程において、心がどんな風に成長するのか。幼少期の経験が大人になってからの人間関係にどう関わるのか、という学問であるという。また精神保健とはメンタルヘルスのこと。「精神的な不調は誰にでもあるもの。自分自身や周囲のSOSに気づき、心の病気になる前に対応できるリテラシーを身につけるために学んでほしい学問です」と先生。人生を健やかに生きるための知恵として、心理学を役立ててほしい、という思いを込めて日々、学生と向き合っているそうだ。

ゼミでは昨年、有志のメンバーが大学の学生チャレンジ制度に応募して採択された。学生たちが精神科の医療機関を訪問して医師や心理士に精神疾患についてインタビュー。得られた知見をもとにパンフレットを制作し、学内で配布したのである。そんな取り組みを含めて、先生は大学時代にできるだけ様々な体験をしてほしいと語る。一部活動でも



学生が制作した  
パンフレット

ゴルフはスコア100を切るのが目標!



## 研究室 探訪

大阪国際大学  
人間科学部 人間健康科学科  
岸本 直子 准教授 研究室

ことでしょうか。水族館に遊びに行っても魚より、そこに来ている人間を見るのが好きでした」と笑顔。大学は神戸女学院大学の人間科学部へ進み、心の仕組みを学ぶ面白さに惹かれて臨床心理士資格を取得。その後、奈良県立医科大学での臨床経験と研究活動を経て、2023年より大阪国際大学で教鞭をとっている。

専門は臨床心理学、発達臨床心理学、精神保健。人の成長過程において、心がどんな風に成長するのか。幼少期の経験が大人になってからの人間関係にどう関わるのか、という学問であるという。また精神保健とはメンタルヘルスのこと。「精神的な不調は誰にでもあるもの。自分自身や周囲のSOSに気づき、心の病気になる前に対応できるリテラシーを身につけるために学んでほしい学問です」と先生。人生を健やかに生きるための知恵として、心理学を役立ててほしい、という思いを込めて日々、学生と向き合っているそうだ。

## 独 白

### 完成

バルセロナの教会「サグラダ・ファミリア」の主任彫刻家である外尾悦郎氏に、芦田愛菜さんが番組の中で、完成はいつ頃なのかという趣旨の質問をされました。外尾氏は「今、みんなが普通に完成という言葉を使っているけど...本当の完成品というのは、この世にはないんです。少なくとも人間が作るものには...完成という言葉は少し考えた方がいい...」という回答をされました。私たちが生み出す全てのものは常に進化し続けている。完成とは何であるかの問いを投げかけられました。

我々教育に携わる関係者にとっては、当然のこととして、人の成長に完成はないと知っています。しかし、私たちも、社会に目を向けた時、その価値観の中に、幾度となく完全を求め、狭い認識が根付いてしまっていると感じました。私たち人間だけでなく、世の中に完璧なものはない、それを許容できる社会でありたい。そして、そのような考えを持つ人を育てたい。

- 本誌に記載の学年、肩書き等はすべて情報収集時のもので、発行時とは異なることがあります。ご了承願います。
- 本誌へのご意見、お問い合わせ等は大阪国際学園企画・広報校友課までご連絡ください。

各学校の最新ニュースは公式サイトで  
ご覧いただけます。

大阪国際学園

検索



この印刷製品は、  
環境に配慮した資材と  
工場で製造されています。



学校法人 大阪国際学園

大阪国際大学  
大阪国際大学短期大学部  
大阪国際中学校高等学校  
幼保連携型認定こども園  
大阪国際大和田幼稚園





特集

# 関西空港ボランティア 10年目のチャレンジ

大阪国際大学 大阪国際大学短期大学部 × JR 西日本旅客鉄道株式会社

2015年10月より始まった関西空港ボランティア(AKV)は、今年で10年目を迎えました。JR関西空港駅で外国人旅行者をサポートする活動は、社会貢献と同時に参加者どうしが高め合い、さまざまな挑戦を後押しする場でもあります。これまでに参加した学生は4,500名を超え、コロナ禍という未曾有の事態を乗り越え進化を重ねながら、先輩から後輩へと確かなバトンが受け継がれてきました。そんな活動を支える教員やJR社員の方々、そして活動の中心となり取り組んできた学生たちの声から、これまでの軌跡と未来をたどります。

※AKVは「Assisting at KIX as a Volunteer」の略称です。



活躍する卒業生たち  
MESSAGE

レーシングドライバー  
「Visa Cash App Racing Bulls F1 Team リザーブドライバー」  
「SUPER FORMULA チーム無限」  
Iwasa Ayumu  
**岩佐 歩夢さん**  
大阪国際大和田中学校高等学校 出身（2020年卒業）

**チーム一丸となつて戦う楽しさ  
100%の力が出せるよう努力**

プロのレーシングドライバーの魅力は、チームみんなで作り上げてきたマシンを一番速く上手く走らせて、レースのゴールまで車を運ぶ最後の大役を担うことです。エンジニアやメカニックが作り上げたマシンを誰よりも速く走らせつつ、クラッシュすることなくゴールまで運ぶのはプレッシャーも伴いますが、みんなの想いを背負い、チーム一丸となつて戦っているのが、勝った時には全員で喜びを分かち合えるのが大きな魅力だと感じています。

レースで勝てない時、ドライバーとしてのパフォーマンスを100%出せなかったと思えない場合はとにかく自己を分析して課題を見つけ、その改善に挑んで次は100%出せるように全力を尽くす。壁におつかつた時はこれの繰り返しです。しかし、不運なマシンのトラブルなどの外的要因により勝てない場合は、自身の中に課題を見つけようとする必要に自分を追い込んでしまうことにもつながりかねません。自分にコントロールできないことを考え続けても時間の無駄ですし、次に向けた成長や準備の邪魔になります。なので、自分でコントロールできたことかどうかをよく考えた後、そこを深掘りするかの判断をして切り替えるようにしています。

**つらいこともすべて糧に  
目標達成に向けて全力で挑む！**

今一番目の前にある目標は、F1のレギュラードライバーになり、日本人初の優勝＆ワールドチャンピオンになることです。そのために自身のパフォーマンスを常に向上させ、誰よりも速くて上手いドライバーになれるよう努力しています。アスリートのパフォーマンス向上に限界はありません。フィジカルトレーニングやコミュニケーションなど、目標に向かってすべきことや必要なことを整理し、それらすべてにとにかく全力で取り組むことを心がけています。

夢や目標に向けて全力を尽くすことはとても大切なことです。それらを達成するためには、好きでないことやつらいことをしなければいけない時もあると思います。しかし、それも含めて自身が描いた夢や目標の魅力です。何事も無難・簡単に進めば、魅力や楽しさは薄まります。たとえ結果が自分の思い描いた通りでなくても、プラスになることはたくさんあると信じています。今しかできないチャレンジもあると思うので、とにかく何事にも全力でぶつかってほしいです。

プロフィール／2001年生まれ。大阪府出身。レーサー一家に生まれ、幼少期からカーレースに親しむ。2017年にシングルシーターデビュー。2021年にはレッドブルジュニアチームに加入。F1レーサーという大きな目標に向けて、着実にキャリアを重ねている。

**<2025年の戦績>**  
○Super Formula 第1戦 鈴鹿(3/8) 2位  
○Super Formula 第2戦 鈴鹿(3/9) 3位  
○F1 Rd.4 バーレーンGPのFP1にて、Red Bull Racing マックス・フェルスタッペン選手のマシンから出走  
○Super Formula 第4戦 もてぎ(4/20) 3位





# 社会貢献だけでなく 学生たち自身の成長に。



大阪国際大学短期大学部  
ライフデザイン学科  
阪口 葉子 客員教授

## 10年の歩みがつないだ信頼と成長のリリース

AKV活動が10周年を迎えました。活動がここまで続いてきたのは、学生たち一人ひとりの真摯な姿勢と、JR西日本の社員の方々によるご協力があったこそです。立ち上げから関わってきた私は嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。このボランティア活動は、参加前に必ず研修を受けることから始まります。服装やマナーから旅行者への声かけまで、先輩たちが築き上げてきた知識とスキルを後輩たちが丁寧に引き継いでいます。そんな確かな基盤があり、JRの皆さまにも信頼され、現場を任せていただけるのだと思います。

長くAKVを見守る中で心に残っているのは、やはり学生達の成長です。最初は緊張していた学生が、経験を積むうちに自信をつけ、堂々と現場を引っ張っていくようになります。問題が起きても臨機応変に対応する人間力は、まさに社会で必要とされるものではないでしょうか。これまでに約四千五百名が活動に参加してきましたが、誰もが「人の役に立つ喜び」を知り、卒業後も即戦力として活躍しています。AKV活動が大学を代表するボランティア活動として長く継続されることを願っています。



地域協働センター  
楠原 由紀雄 センター長

## 実践を通して人間力を磨く場に

この活動が10年前にスタートした頃は、教職員が学生に対して事前研修やアテンドを行っていましたが、今ではリーダーズ(学生)が中心となって運営され、完全に自走しています。英語が得意でない学生や初めての参加者には経験豊富なリーダーズが寄り添い適宜フォロー。その安心感から最初の一步が踏み出せたなら、不安げだった学生にも自信が芽生え、学びを深めるきっかけにつながっていきます。

外国人旅行者に自ら声をかけるには、大変な勇気が伴うでしょう。「できれば失敗したくない」と誰もが思うはずです。そんな中、しっかりと前を向いて対応する学生たち。日本の好印象を彼らが作っていると思うと、敬服せずにはいられません。

あらゆる多様性にふれながら、おもてなしの技術も磨ける総合的な学びの場。目標を達成する喜びや、参加者どうしで認め合う気持ちを醸成するプログラムは、継続して参加する学生が多いのも特徴です。大学時代に社会とつながる経験は大変意義深いもの。自らやる気になれる場づくりを通して、今後も多くの学生の成長につながるよう支えていきたいと思っています。



## JR社員の方からのメッセージ

### 「地域共生」の理想を体現する AKVの活動を末永く支えたい

AKVの活動は、JR西日本が掲げる「地域共生」の理念にも通ずる、とても意義深い取り組みです。関西空港という世界の玄関口において、学生の皆さんが旅行者の方々にとりかかりと寄り添い、丁寧に案内する姿には、プロである私たちも学ぶべき部分が多くあり、社員も背筋が伸びる思いです。ボランティアを超えて、自らのレベルアップを目指して誰もが真摯に取り組んでいる、その意識の高さや責任感が10年間という歴史につながっていると感じます。1を言ったら10動いてくれる学生の皆さんは、当社にとっても非常に助かる存在。まさに産学連携の理想形ではないでしょうか。今後もできる限りの協力を惜みず、AKVの活動をともに支えていきたいと考えています。

西日本旅客鉄道株式会社  
近畿統括本部 和泉府中統括駅  
関西空港駅長  
田村 俊光 様



## 数字でわかる AKVの10年



## AKV活動1日のスケジュール

|             |                     |                          |
|-------------|---------------------|--------------------------|
| 8:00        | 大学集合                |                          |
| 8:20        | 出発(大学専用バス)          |                          |
| 8:20~9:35   | 移動                  | 車内で一人ずつ「今日の目標」を発表します!    |
| 9:35        | 関西空港駅着              |                          |
| 9:35~9:50   | 控室にて準備              |                          |
| 9:50~10:05  | JR社員の方よりワンポイントアドバイス |                          |
|             |                     | 切符の種類や買い方などをレクチャー        |
| 10:10~15:00 | 活動                  | お昼休憩は交代でとります             |
| 15:00~15:20 | 控室にて後片付け・アンケート記入    |                          |
| 15:30       | 出発(大学専用バス)          |                          |
| 15:30~17:00 | 移動                  | 車内で意見交換&反省会。当日の疑問はここで解決! |
| 17:00       | 大学到着・解散             |                          |

## JR社員の方からのメッセージ

### 礼儀正しく、明るくて積極的。 がんばる学生たちが我々の励みに

大阪国際大学の学生さんと接する中で感じるのは、その礼儀正しさと明るさ、そして真面目さです。活動前に行う朝のワンポイント講座では熱心にメモを取り、終了後のミーティングでも「お客様がこう言っていたがどう対応すれば良かったか」など様々な質問が飛び、1日で大きな成長を感じます。最初は戸惑っていても、回数を重ねるごとに視野を広げ、駅の構造や導線を把握した上で「ボールの配置を変えた方が良いのでは」といった提案まで出てくるようになるのです。大学生活において、このように社会と接点を持つことで得られる気づきや成長は非常に大切ではないでしょうか。今後も無理のないペースで継続し、AKVが15年、20年と続いていくような活動になればと願っています。

西日本旅客鉄道株式会社  
近畿統括本部  
和泉府中統括駅 関西空港駅  
業務統括助役  
佐本 哲也 様



## AKV活動10年のあゆみ

- 2015年  
10月 AKV活動がスタート  
最初は関西空港ターミナルビル内、リムジンバス乗り場、トラベルデスク前、JR南海連絡通路など、今より広範囲で活動していました。
- 2016年  
12月 活動場所がJR関西空港駅に
- 2016年  
9月 関西観光教育コンソーシアムにて活動発表。「最優秀賞」を受賞
- 2017年  
2月 日本ビジネス実務学会近畿ブロック研究会・学生プレゼンテーション大会にて「優秀賞」を受賞
- 2018年  
12月 社会人基礎力育成クラブ近畿地区大会に出場。「優秀賞」を受賞  
活動を通じて「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」がどれだけ成長したかや、大学で学んだ専門知識をどれだけ深められたかが評価されました。
- 2019年  
11月 JR社員の方による「ミニ講座・反省会」がスタート
- 2020年  
2月 AKV活動が休止  
新型コロナウイルス感染拡大により活動ができなくなりました。
- 2021年  
1月 JR関西空港駅長 御堂直樹様とのオンライン交流会を開催  
「コロナ禍で活動を模索する中、挑戦する大切さや社会に出て必要なことなどをアドバイスいただきました。」
- 2022年  
12月 「訪日観光客向け注意喚起ビデオ」の撮影を開始  
駅をより安全・便利に利用していただくよう提案。JR関西空港駅協働プロジェクトとして社員の方々や検討を重ねながら、撮影・編集・出演はすべて学生が担当しました。
- 2022年  
4月 コロナ禍で休止していた活動が再開  
7月 「訪日観光客向け注意喚起ビデオ」が放映開始  
駅構内、発券機前、みどりの窓口内にて、12月には英語版の放映もスタート。エスカレーターでのキリケース落下などの事故防止につながっています。
- 2025年  
3月 トキエア神戸空港就航式イベントに協力  
ライフデザイン学科トキエアプロジェクトメンバーとともにAKVメンバーも参加。初就航のお客様を笑顔でお迎えし、イベントを華やかに盛り上げました。

## ★10年目に突入へ







## 日本の原風景へのニーズが拡大 SNSの「バズリ」が影響も

オーバーツーリズムとは、特定の観光地に受け入れ能力を超える観光客が集中し、そのエリアの社会生活や観光地としての魅力に悪影響を及ぼしてしまう状態を指します。オーバーツーリズム自体は世界中の観光地で起きている問題ですが、昨今、特に日本で取り上げられるようになったのは、訪日外国人観光客数が2013年に1,000万人を超えたあたりから急激に増加したことが背景としてあります。

訪日外国人観光客が増加し始めた頃は「ゴールデンルート」と呼ばれる、外国人が好む大阪〜東京間の定番の観光ルートがあったのですが、リピーターが増えるにつれ、より日本的な風景を求める旅行者が増えたことから受け入れ能力の少ない地方にも観光客が向かうように。さらに最近の傾向として、観光地ではなかった場所がSNSによって突如注目され、観光客が一気に押し寄せる現象などが問題に拍車をかけているといえます。

## 「言われなければわからない」 文化やマナーを伝える努力を

混雑以外でいえば、外国人観光客が日本のルールを顧みず行動することで、地域社会や観光地に悪影響をもたらしているという問題もあります。ただ、島国である日本にはある意味で美徳とされる「和を以て貴しと為す」という性善説的な考え方があり、それを前提にした仕組みや察する文化が裏目に出ている面が少なからずあるように感じます。

私たちは「きちんと並ぶ」、「人に迷惑をかけるないように振る舞う」といったことは自然と身についていますが、そういった文化的背景を持たず、日本の文化も知らない外国人がそれを理解するのはそもそも難しいということを認識しなければなりません。外国人観光客を迎える側は、彼らが日本に来る前や、着いてすぐのなるべく早い段階で、日本の法律や慣習等を知ってもらう取り組みを地道に継続することが必要となってくるでしょう。最近では外国人の従業員を雇い、外国人旅行者へ接客してもらうことで、文化間の相違や

## 資源保持と経済利益の両立には デママーケティングが有効

本来は訪日客数を増やすこととその受け皿を整える政策を並行して進めていくべきところを、訪日客数の追求が先行してしまったり、急増に受け皿の整備が追いつかなかったことが日本のオーバーツーリズム問題の根幹にはあります。消費が増えるのは望ましいですが、その土地の魅力を損なわないためには数を抑制するデママーケティングが有効になります。

その例としては、岐阜県の白川郷が挙げられます。合掌造りで有名な山間の小さな集落で特に冬の夜景が美しいのですが、そのため



岐阜県・白川郷  
駐車場を集落外に設けて入村制限をかけるほか、駐車料金を値上げする動きも。地域住民と旅行者のどちらも満足できる仕組みが模索されている。

# オーバーツーリズムの 解決策を考える

2025年4月の訪日外客数は、単月として初めて390万人を突破。円安の影響もあり、今後ますます増加すると予想されています。ただ、急激な外国人観光客の増加によって、観光地では様々な課題も。持続可能な観光産業を維持していくにはどうすればよいのか。そのヒントを、観光学が専門の森田准教授にお聞きしました。

大阪国際大学  
国際教養学部 国際観光学科  
森田 浩司 准教授

観光客が殺到する事態に。そこで集落の外に駐車場を整備し、集落内に観光車の乗り入れを禁止。人気のライトアップイベントは事前予約制にして来訪者の数を調整しています。

このようにさしあたっては「数の対策」と「ルールやマナー遵守への対策」が必要となるでしょう。関西空港ボランティアの活動のようによりよいコミュニケーションを築きながら、経済効果との両立をぜひ推進していきたいものです。

お客様から教わった表現を次に活かしてブラッシュアップ!率先して人助けができるようになり成長を実感しています。

人間科学部  
スポーツ行動学科 4年次生  
**中井 ひなのさん**  
〈参加回数〉64回

独学で習得した韓国語が通じた時の達成感!英語でもニーズにあわせたチケットをご案内できるようになりました。

国際教養学部  
国際コミュニケーション学科 3年次生  
**新村 彩花さん**  
〈参加回数〉22回

ご案内した通りに行動して下さったお客様を目の当たりにし、“言語が通じた”手ごたえに嬉しくやりがいを感じました。

国際教養学部  
国際観光学科 4年次生  
**米田 深由さん**  
〈参加回数〉67回

社会人の方々と接して礼儀作法や言葉遣いが身に付きました。グランドスタッフになる夢に向けて実践的に学んでいます。

国際教養学部  
国際コミュニケーション学科 2年次生  
**山田 優花さん**  
〈参加回数〉15回

英語に加え、路線図やチケットの理解も求められる活動は難しくもやりがいがあり、臨機応変な対応力が磨かれています。

国際教養学部  
国際コミュニケーション学科 2年次生  
**兼松 大翔さん**  
〈参加回数〉11回

初回に何もできなかった悔しさから、2回目でリベンジ。徐々に苦手だった英語が楽しくなり、積極性も身に付きました。

経営経済学部  
経済学科 3年次生  
**岩橋 慧さん**  
〈参加回数〉14回

駅構内で怪我をされた方の対応をした際、どんな状況でも落ち着いて対応することの大切さを学びました。今は慌てずひと呼吸おいて行動することを意識して乗務しています。

株式会社エアージャパン  
客室乗務員  
**澤田 和佳さん**  
(2018年卒業)

AKVの活動を経て夢であった客室乗務員になりました。それぞれの夢に向かって、一歩ずつ前進して下さい。努力が実を結ぶことを心から願っています。

Peach Aviation 株式会社  
客室乗務員  
**澤田 美穂さん**  
(2021年卒業)

エアライン業界を目指している方にとって、AKVでの活動は面接時にもとても強みになる活動です。興味があれば、是非積極的に挑戦して欲しいです。

大韓航空・ジンエアー  
グランドスタッフ  
**甲本 純菜さん**  
(2017年卒業)

10年間の参加者はのべ4,572人!  
在学生と卒業生からの  
声をご紹介します!

AKVでは、リーダーシップ・協調性を学びました。活動で培った思考や視点は、社会でも大いに役に立っています。

ANA大阪空港株式会社  
**大口 諒介さん**  
(2023年卒業)

活動を通して英語力だけではなく、どのような情報を求めているのか、相手の事を考えることを学びました。経験してきたことは就職活動の武器となり、就職後も必ず活用できます。

トキエ株式会社  
**馬医 健生さん**  
(2025年卒業)

AKVで培ったコミュニケーション力は社会人5年目になったいまも接客現場で活きています。またスタッフ育成においても役立っています。

株式会社星野リゾート・マネジメント  
**仲西 紋音さん**  
(2020年卒業)

AKV 10周年、心よりおめでとうございます! AKVでの活動を通して、自分に挑戦する勇氣を持てるようになり、新しい自分にも出会えました。夢だった航空業界で働く機会も、人生の大切なパートナーとの出会いも、すべてAKVがきっかけです。本当に感謝しています!

JUNGZIA OKINAWA(ジャングリア沖縄)  
**張 甫成さん** (2015年 協定校留学生)

AKVに参加したおかげで空港に関する知識が身に付き、希望していた航空会社に就職。さらには人生のパートナーにも出会えました。すべてAKVが繋いでくれたご縁です。私のようにAKVが学生の皆様にとって良い経験場所となり、人生の糧になることを願っています。

JUNGZIA OKINAWA(ジャングリア沖縄)  
**張 遥さん** (2017年卒業)

AKV活動で出会い結婚しました!



**参加者の笑顔が活動の原動力**

**宮本** 二人は学友会でどんな役割を担っているのですか？

**米原** 私は学友会における「優花祭実行委員会」の委員長を務めています。

**生島** 私は学友会の会長として全体を統括しています。優花祭以外の六華祭、新入生交流イベントなどの運営ですね。

**宮本** なぜ学友会に参加しようと思ったのですか？



人間科学部 心理コミュニケーション学科3年次生の米原和貴(左)さんと生島昭弥(右)さん

**生島** 私は高校時代も生徒会などで校内イベントに関わっていて、大学で学友会の存在を知った時に自然に「やろう」と思いました。誰かを喜ばせることが好きなんです。学友会のイベントを皆が楽しんでくれて「ありがとう」と言われる時、やりがいを感じます。

**米原** 私は友人に誘われて何となく始めたのですが、生島さんと同じく皆の喜ぶ顔にワクワクしますね。昨年の優花祭では、遠方から来てくれた方が「すごく楽しかった」とアンケートに書いてくださったので、ちょっと泣きそうになりました。

**宮本** 「体験に勝る学びはない」というのが私の信条です。大学では学業もちろん大事ですが、クラブ活動や留学、ボランティアなど、自ら考え、行動する経験こそが人を大きく成長させます。二人とも、まさに貴重な体験を積んでおられますね。

**スムーズな運営に必要なことは**

**宮本** 学友会は今、41名という大所帯だそうですね。組織をスムーズに運営するために、心がけていることはありますか？

**米原** 後輩たちを「褒めて育てる」ことを意識しています。それぞれ



の得意不得意を見極めて、無理な仕事は任せず、できた部分をしっかり評価する。そうすると自信がついて、自然に皆のモチベーションも上がっていくんです。

**生島** 私は逆に「ここはできていないよ」と、あえて厳しく指摘する役割を引き受けています。誰かが注意しないと全体がうまく回らないこともあるので、嫌われ役を買って出る感じでしょうか。

**宮本** なるほど、良いコンビですね！役割分担がうまく機能している。

**米原** とはいえ、課題も山積です。特に予算と企画内容のバランスが難しい。限られた予算内で最も盛り上げるため、いつも試行錯誤しています。

**生島** 本場にそう！例えば昨年、ピング大会の運営を任せられたのですが、景品選びには苦労しました。目玉商品にお金をかけるのが良いのか、バランス良く色々な景品を揃えるべきか…悩みました。

**宮本** 先生方に景品を寄付して

もらうとか、方法は他にもありそうですね。チャリティーのような形でやるのも面白いんじゃないかな？私も協力しますよ。

**生島** それ良いアイデアです！視点をちょっと変えれば、問題の解決策が見えてくるものですね。

**自信や自己肯定感が自然に培われる**

**宮本** 実際に依頼するかどうかはともかく、先生方に景品提供の協力を仰いでみるという行動そのものが、交渉力や人とのコミュニケーション能力を磨くことにつながり、社会に出た時に必ず役に立ちます。学友会の活動は、大きな成長の機会でもあるのですね。

**米原** 私自身は活動を通じて、以前より自信がつき、自己肯定感が高まったと感じています。もともとコミュニケーションが苦手で、人前で話すなど考えられませんでした。しかし優花祭の実行委員長としては、イベントの司会や挨拶もしなければなりません。自分を鼓舞してチャレンジする中で、自然とスピーチもできるようになりました。

**生島** 私は、人を信頼できるようになったのが成長ですね。最初は誰かに仕事を振っても「大丈夫かな」と不安で口を出しすぎることも。



それで逆にトラブルになったりしていました。今は「信頼するから信頼される」ことを実感しています。

**宮本** 人を信頼し、任せることができる人は社会でも必ずリーダーとして活躍できるでしょう。

**生島** 学長ご自身は、成長のため心がけてこられたことがあるのでしょうか？

**宮本** では、私がいつも大切にしていた言葉を贈りたいと思います。私が長く勤めていたパナソニックの創業者、松下幸之助氏のお氣に入りの言葉です。まず「大きな耳、小さな口」、は、相手の話をよく聞くこと。「小さな口」は、自分の意見ばかり主張せず謙虚な姿勢でいること。そして「優しい目」は、配慮と思いやりを持って人と接すること。生きていく上で、この3つが生産の財産になります。もちろん私も完璧ではありませんが、二人にも心に留めておいてほしいと思います。

**生島・米原** ありがとうございます！肝に銘じます！

自ら考え、行動し、課題解決する。  
貴重な体験を積んでいますね。

大阪国際大学  
大阪国際大学短期大学部  
学長 宮本 郁夫

「ありがとう」と言われる喜びが活動のモチベーションです。

課題をひとつ乗り越えるたびに自分を肯定できる気がする。

今号の対談相手は、人間科学部 心理コミュニケーション学科で学ぶ、生島昭弥さんと米原和貴さん。二人とも本学の学友会に所属し、優花祭はじめ様々な学内イベント運営の中心となって活躍しています。

2025優花祭「千載一遇のポテンシャル～無駄遣い上等～」

2025年11月2日(日)・3日(月) 10:00～16:00 OPEN

“失敗を恐れないチャレンジ精神と大学生にしかない自由な発想を思いっきり使って楽しんで欲しい”という思いが込められています。

ポテトやわたあめ、射的やフリマなどの模擬店を40店舗出店予定。中庭ステージや奥田メモリアルホールでは大学生たちが、音楽やダンス、漫才などのパフォーマンスを披露。またお笑い芸人やアーティストなども登場予定。大学祭ならではの盛り上がり是非体験しにお越しください。



## 全国高等学校総合体育大会(インターハイ)出場!!

### 女子バレーボール部

大阪府高校総体バレー2025で、14年ぶりの優勝を果たし、大阪第一代表としてインターハイへの切符を獲得しました。これで3年連続、通算28回目の出場となります。2025年8月5日から岡山県で開催されるインターハイに向けて、“自分たちの掲げるバレー”を追求し、【創魂】【和に通ずる心を育て】をモットーに昨年度より上位を目指し、練習に励んでいます。応援の程よろしくお祈りいたします。(昨年度はベスト4入り)



### 男子硬式テニス部

2025年5月10・11日開催の大阪春季大会で優勝を飾り、2年連続で団体戦の部においてインターハイ出場を勝ち取ることができました。また個人戦シングルスでは西山蒼司さん(3年生)と宮崎颯大さん(3年生)が、ダブルスでは西山蒼司さん/中富奏太さん(1年生)ペアが、7月29日から広島県で開催されるインターハイに出場予定。また9月29日から開催の第79回国民スポーツ大会に大阪府代表として木崎琉士さん(3年生)、奈良県代表として大塚弦さん(2年生)が出場予定。



## GLOBAL MIND 学園HEAD LINE

## カンボジアボランティア研修

初の大阪国際高等学校と大阪国際大学の合同開催となったボランティア研修が、2025年3月17日から25日までの9日間にわたり実施されました。文化・平和・起業に関する学びに加え、メインプログラムは、小学校での運動会ボランティア。運動会を知らない子どもたちに「身体を動かす楽しさ」を伝えるべく、高校生と大学生が協力して企画・運営しました。運動会当日は笑顔あふれる交流が展開。参加者は、カンボジアでの異文化理解だけでなく、平和な学校生活の大切さや、日本の教育環境が恵まれていることを再認識。また、高校生と大学生が協力・連携することで、お互いに刺激と学びを得る、実り多い研修となりました。



## 守口門真消防組合より「プレッパーズ部」へ感謝状

2025年3月6日、守口消防署にて感謝状授与式が執り行われました。プレッパーズ部は創部から10年にわたり、地域住民を対象とした防災講座・避難訓練などを精力的に展開。また本学と消防組合が協働した住宅用火災警報器設置促進運動など、幅広い取り組みが高く評価された結果、この度の表彰となりました。10年の歴史を礎に、プレッパーズ部は今後も減災・防災の知識向上と地域活動の強化をめざし、一層積極的な活動を継続する決意を新たにしています。



## “ハッピーハロウィンデー「吹奏楽」「お菓子作り」を楽しむイベント”を開催

2024年10月26日、大阪国際学園芸術文化教育センター主催「ハッピーハロウィンデー」では、大学・短大吹奏楽部・守口市立庭窪中学校吹奏楽部の演奏とともに、ハロウィンにちなんだ、和菓子とクッキー作りを楽しむ機会を地域の小学生に提供しました。



## 遊具贈呈式

2025年5月9日、株式会社統轄本部 オールケア・グループ様のご指定により、京都銀行様よりこども園へ色とりどりのおもちゃをご寄贈いただきました。園児たちは、さっそく新しいおもちゃで元気いっぱい遊び、大変喜んでいました。これからも、大切に、楽しく、安全に活用してまいります。



## 連携協定締結

2025年6月19日、大阪国際大学と大阪府中小企業家同友会は「包括連携協定」を締結しました。本協定は、大学・同友会・地域社会の“三方よし”を目指し、課題解決型プログラムの実装を通じて相互発展を図ることを目的としています。本締結により、大学と中小企業の経営者が協力し、人材育成・社会課題への対応・共同研究を推進してまいります。



## 「平安の像」国際中高へ

これまで、旧滝井高等学校の西館屋上にて、「女神さん」の愛称で生徒や地域の人々に親しまれていた「平安の像」は、2024年10月、大阪国際中高の食堂と美術教室棟の間に移設されました。今後も「学園と地域を見守る役割」を担い続けていきます。



## 卒業生がスポーツ界へ!! 本学園の卒業生が活躍中! 応援の程よろしくお祈りします!

大阪国際高校(2025年卒業)

◆岡山シーガルズ入団 : 宮川絢花さん・宮川琴花さん

大阪国際大学(2025年卒業)

◆埼玉上尾メデックスに入団 : 井城青空さん(人間科学部 スポーツ行動学科)

◆JAぎふりオレーナに入団 : 古屋七タさん(人間科学部 人間健康科学科)



博物館学を学ぶ6名の学生が五月女准教授監修のもと、企画に参加! 「何をどう展示すれば見やすいのか」。展示における注意点や資料の取り扱い方法などを学び、2日間にわたって準備しました。



博物館学が専門の先生。今回の万博でも「静けさの森アートプロジェクト」のアドバイザーやザンビア共和国のパビリオン・コンサルタントなどで関わられています。

半年という長い期間にわたり、さまざまな課題の解決策を持ち寄り、世界中の人々が一堂に会して対話を行う国際的な制度は、万博において他にありません。名も知らない国から、思いがけないアイデアもたらされることもあります。そんな万博の魅力を、展示や各国のスタッフとの交流を通じて、ぜひ感じていただきたいです。

国際教養学部 国際観光学科  
五月女 賢司 准教授



本学の学生が登場する書籍が出版されました!

『セラピー犬ジョン こども病院のきせき』

皆さんは「セラピー犬」を知っていますか? 体の不自由な方の日常生活をお手伝いする盲導犬や介助犬は有名ですが、セラピー犬は患者さんの心身の機能を回復させるための活動を補助する犬のことです。本書に出てくるジョン君は飼主のみどりさんとともに病院でボランティアを行うセラピー犬で、小学6年生だった私の闘病生活を支えてくれた存在でもありました。

私は生後、脊髄髄膜瘤を患い、幼い頃は入院生活を繰り返す日々。その中でもっとも重い手術を受けた際に出会ったのがジョン君でした。母が「ブレイクルームに犬が来ていたよ」と教えてくれ、2週間に1度病棟を訪れるジョン君とふれあうために大好きな私は治療に専念しつつ日々のモチベーションとなってくれたのです。本書はそんな私ともう一人の患者であった空君の闘病の記録でもあります。空君は難病の18トリソミーを患いながら、ジョン君に希望を与えられた患者さんの一人。私は本書を読んで初めて彼の存在を知りましたが、私と同じく、言葉を越えた思いやりやさしさの循環が起きていたのだなと胸が熱くなりました。

健康な体で過ごしていると、難病を患っていたり、大人になれないまま生涯を終える子どもたちの存在をつい忘れてしまいがちです。命の尊さを再認識するきっかけにもなる本書は、小中学生をはじめ、幅広い年代の方に読んでいただきたい一冊です。

国際教養学部 国際コミュニケーション学科3年次生 長重 未来



今西 乃子 著 金の星社 2025年